

レクイエム

~ Requiem ~

もののふ

いざな

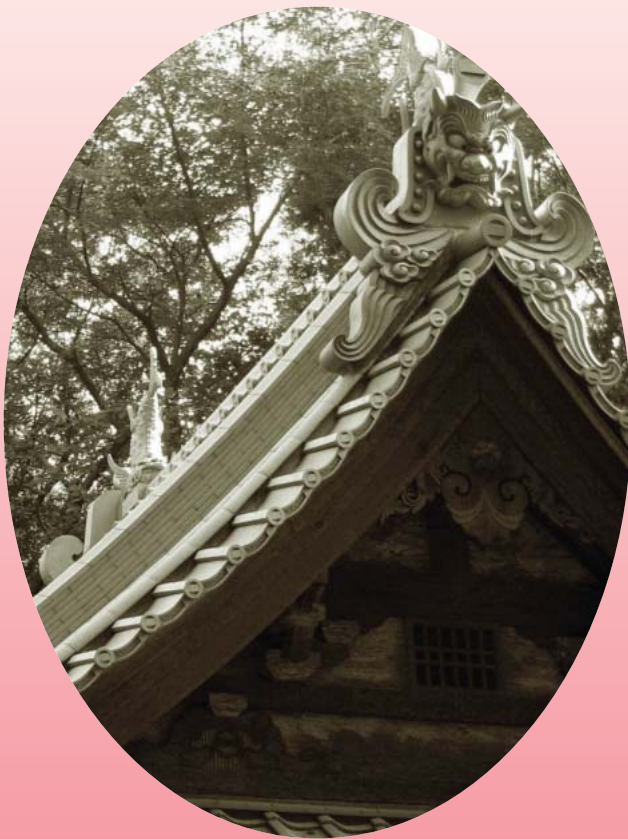
武士たちの誘ひ

国指定史跡

新田荘遺跡

金山城跡

円福寺千手観音鬼瓦



円福寺 (別所町)

円福寺は、新田氏第四代の新田政義が鎌倉時代に開いたと伝えられている。

このあたりは、十三世紀中ごろから十四世紀前半ごろの新田氏の拠点と考えられていて、この円福寺には累代の墓と伝えられる二十基あまりの石の塔がある。

境内の大半は、県内第三位の規模の前方後円墳、茶臼山古墳が占めていて、その前方部には、千手観音堂が建てられている。

第一章 流転 (深紅の輪舞曲)

流れ行く時を止めることは誰にもできない 親から子 そしてその子へと… 歴史は本当に繰り返されているのだろうか まるで輪舞曲のように

十二所神社は、円福寺との地続きで茶臼山古墳の頂上近くにひっそりと佇んでいる。

神社には十六体の像が安置されていて、そのうち市重要文化財の五体の像には、制作年と思われる「正元元年」(千二百五十九年)の文字が刻まれている。

茶臼山古墳には、新田義貞の娘と後醍醐天皇の子息の間に生誕したと思われる国良親王の御陵である事を記した石碑が建てられている。

十二所神社境内 (別所町)



神社への登り口

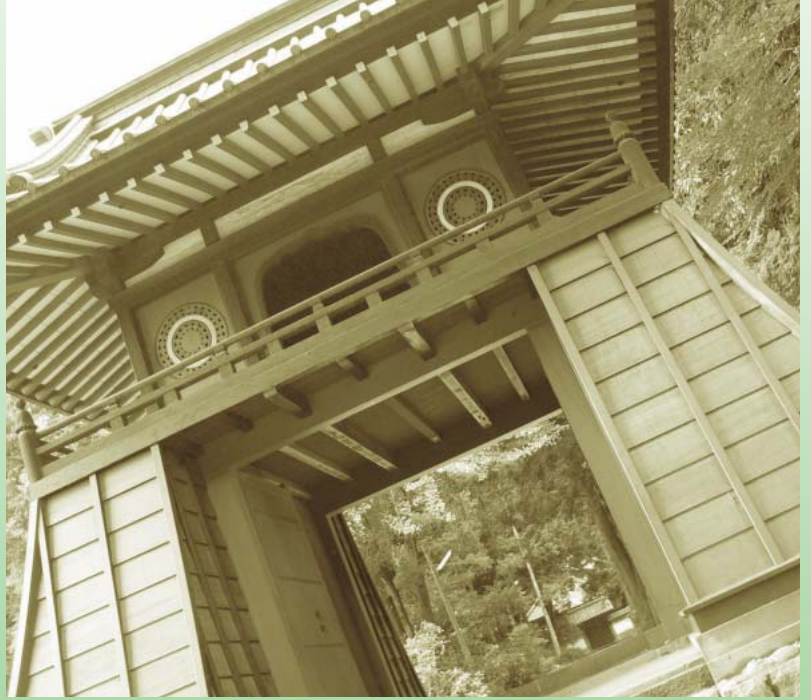
ちやうらく じけい たい せら だちやう
長楽寺境内 (世良田町)

長楽寺は、徳川氏の祖といわれる「徳川（新田）義季」が臨済宗の祖である栄西の高弟栄朝を招き鎌倉時代に開いたもの。

その名声を慕って、全国の僧侶の憧れの地であったと共に常時500人を超える学僧が修業に励んでいたといわれている。

一時期衰退はしたが、徳川家康の力により復興を果たし、江戸時代には幕府庇護のもと700もの寺を抱える大寺院に成長した。

竜宮伝説の残る池もある。



みどり プレリユード
第二章 憧憬 (常磐色の前奏曲)

縁ある者による国の統治

その前奏曲はすでに奏でられていた

しかし その曲に気づく者は誰もいなかった 憧れのみで…

正面から見た拝殿



とうしやうくわう けい たい せら だちやう
東照宮境内 (世良田町)

世良田の東照宮は、徳川家康埋葬地(久能山より改葬)の日光東照宮を大改築した際、時の将軍家光の命によってその奥社拝殿を徳川氏ゆかりの地に移したもので、全国に600もあるといわれる東照宮の中でも最古のものとなる。

この拝殿は、江戸城、名古屋城などを築城した大工の作で、日本画の狩野探幽も参画している。

境内にある、高さ5m近くになる国重要文化財の鉄燈籠も圧巻。

毎年4月の第1日曜日には「葵まつり」を開催している。



鐘楼から見る本堂



総持寺境内

(世良田町)

総持寺は、新田氏の館跡に建てられた寺で、その館の居住者は新田義貞など色々な説が伝えられている。

この境内にある市重要文化財の梵鐘は、関東三大祭のひとつと言われた「世良田祇園」の屋台(ぎん)神体を移動できるようにしたもので、これに様々な飾りをつけたものが(山車)の引き廻しの合図にも使用された。

反町館跡

(新田反町)

反町館は、鎌倉時代から南北朝時代のころの館跡で、室町時代に金山城の支城となつたと推定される。

かつては、三重の壘濠に囲まれた堅固な城だったが、現在は本丸跡に面影をとどめているのみとなっている。

館跡は照明寺の境内となっていて、反町薬師として親しまれている。

ここ反町薬師は、厄除けで有名で毎年一月四日は大勢の参詣人でにぎわう。本堂裏手には、新田義貞伝説の残る「鳴かずの池」がある。



待合方面から見る本堂

第三章

慟哭

(紫紺の小夜曲)

中心部辺りから見る土塁



在りし日の

そこでは息吹を感じることができない館
だが、あなたは確かにそこで笑い
憂い

江田館跡 (新田上江田町)

江田館は、鎌倉時代から南北朝時代のころの館跡で、戦国時代には、周りの屋敷を含めて城郭であったと推定される。
この時代の城跡は、通常堀が埋められてしまっている等、基本の形が変えられてしまっているが、江田館はほぼ当時の姿をとどめている。
館跡には、金山山頂にある新田神社の本となった小さな祠が残っている。

明王院境内 (安養寺町)

明王院は、新田義貞が居住していたと推定される館の跡に建てられた寺。
ここ「新田触不動」といわれる不動明王像は、新田義貞鎌倉攻めの際に、一夜で越後方面の新田一族に急を告げたと伝えられている。
境内には、高さ六メートルにもなるピラミッド型に千体の不動尊像を配した市重要文化財の千体不動塔もある。

そして泣いた
小夜曲に包まれて



門から見る千体不動塔

第四章

空蟬

夢を追い
意気盛んにこの地を離れた者がいた
今はただ奏鳴曲を奏でるかのように
彼の夢は途中で潰え
彼もまた…

(瑠璃色の奏鳴曲)

水を湛える水源

本殿正面



生品神社境内 (新田市野井町)

生品神社は、新田義貞が鎌倉幕府を倒すために挙兵をした場所といわれている。

境内には義貞が旗を挙げた場所と伝えられる「旗挙塚」や出陣の儀式を行った場所と伝えられる「床机塚」があり。

毎年5月8日には、義貞が挙兵の際に鎌倉に向け矢を放ったという故事に習った「鏑矢祭」という祭りを実施している。

自噴現象の見られる湧水地



矢太神水源 (新田大根町)

矢太神水源は、湧水量が多いため、「自噴現象」という水が砂を吹き上げる現象を見ることができる。

この水源には、清流にしか生息しない「ニホンカワモズク」という貴重な紅藻類が生息している。

ここでは、カワセミの姿も見ることができる。

この周辺は、「ホテルの里公園」としても整備されている。



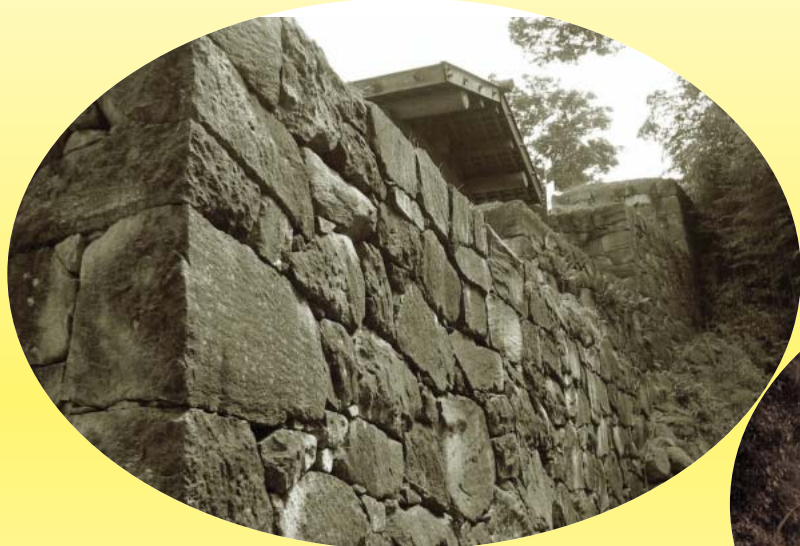
重殿水源 (新田市野井町)

重殿水源は、今でこそ石垣とコンクリートで囲まれた池となつているが、その水面には古い三墓の石の祠がある等、昔から重要視されていた湧水地であることがわかる。

鎌倉時代には新田氏の一族同士が、この水源からの用水をめくり争いを起こした記録がある。

第五章 月光 (金色の夜想曲)

すでにその目的を果たさなくなつてから久しい 古城
何を見つめてきて これからも見つめていくのであろうか
夜想曲の調べにのって 悠久の時のみが静かに流れていく



乱世の時代が偲ばれる石垣



金山城跡 (金山町)

金山城は、室町時代中期に新田氏の一族である岩松家純によって築城。

戦国時代には北条氏の支配下となるが、それまで、上杉謙信、武田勝頼などの有力戦国大名からの攻撃に耐えた難攻不落の山城で、関東七名城のひとつに数えられている。

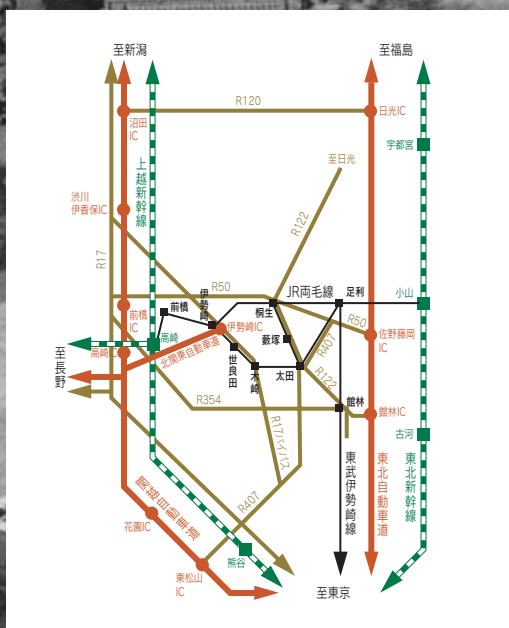
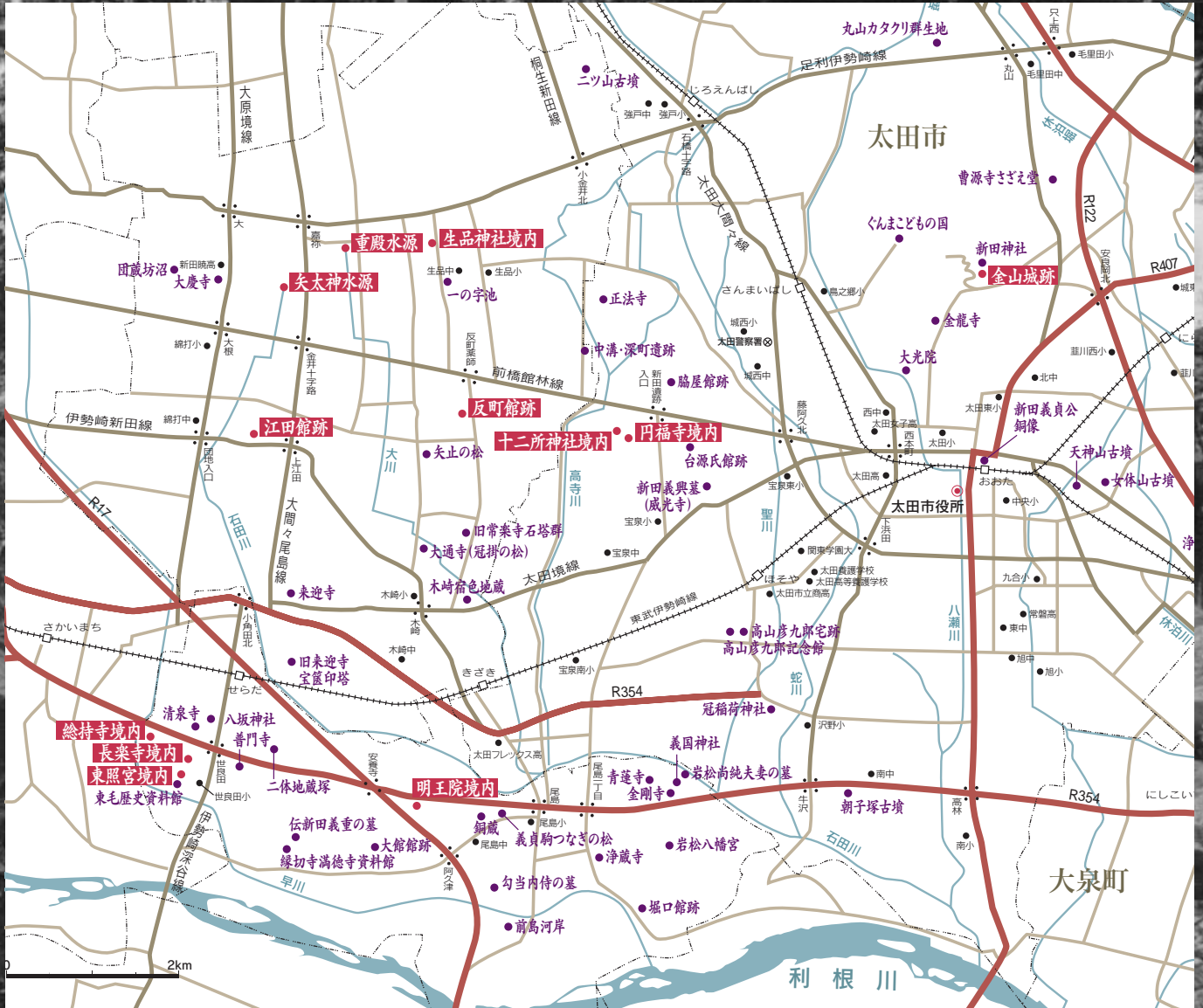
北条氏の滅亡と共に廃城となり、400年以上経過しているが、現在その一部を復元中。

本丸跡には、新田義貞を奉る新田神社があり、金山と新田一族の深い繋がりを感じとることができる。

金山城は、「日本100名城」に選定されていると共に、その城跡からの風景は、「関東の富士見百景」に選定されている。

水の流れるのみが夢を繋いでいる

案内図



新田一族へ捧げる鎮魂曲
 彷徨の時代へ想いを馳せ
 エトランゼ
 史学者となる一日

太田市教育委員会 文化財課

☎370-0495 群馬県太田市粕川町520番地 ☎0276-20-7090